

# 奄美群島 国立公園

National  
Parks  
of Japan



## 国立公園とは

国立公園は、日本を代表する自然の風景地として、自然公園法に基づいて国が指定するものです。北は北海道から南は沖縄、小笠原諸島まで34の国立公園が指定されており、年間3億人以上が利用しています。国立公園内は、自然の絶景だけではなく、野生の動植物、歴史文化などの魅力の宝庫です。日本の国立公園は、森林、農地、集落など多様な環境が含まれていることが特長です。ほとんど手つかずの自然が残されているところがある一方で、自然と人の暮らしが織りなす地域の歴史や文化にふれることができます。是非、実際に国立公園を訪れ、四季折々に変化する日本の美しい自然を満喫してください。

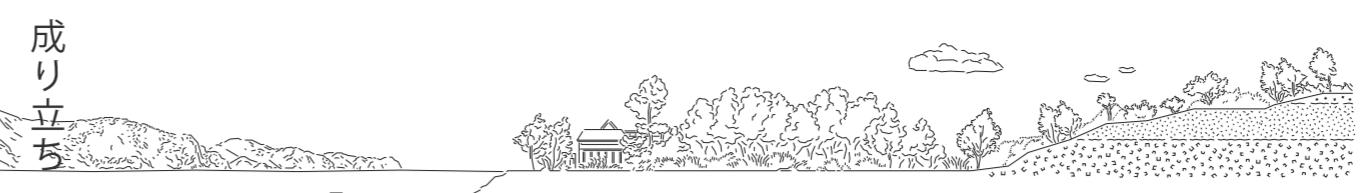


[指定年月日] 平成29年3月7日 [面積] 42,196ha(陸域)  
[関係都道府県] 鹿児島県 33,082ha(海域)



## 特長 — 生命にぎわう亜熱帯のシマ — 森と海と島人のくらし —

奄美群島国立公園は、鹿児島県の最南部に位置し、平成29年3月7日に34番目の国立公園として指定されました。奄美群島の島々には、豊かで多様な自然環境と固有で希少な動植物からなる生態系、そして人と自然のかかわりから生まれた文化的景観が残されています。奄美群島国立公園では島ごとに個性的で魅力のある自然と、人々の営みの歴史や暮らしを感じる体験を楽しむことができます。



## 成り立ち

奄美群島は、弧状に連なる琉球列島の中ほどに位置し、新生代の新第三紀（約2,300万年から260万年前）以降の激しい地殻変動により、大陸や日本本土と陸続きになったり離れたりを繰り返してきました。琉球列島が形成される過程で、生物の移動が制限され、はるか昔は大陸に広く分布していた生物はその島々に閉じ込められ、何万年もの長い年月をかけて島ごとに固有の種へと進化してきました。

約1,200万年前には大陸と陸続きであったため、アマミノクロウサギの祖先を含む多くの生物は大陸に広く分布していましたと考えられています。

約200万年前までは琉球列島が大陸から切り離され、九州に続く北琉球、中琉球、南琉球のブロックに分離しました。このうち奄美群島国立公園のある奄美地域は中琉球に含まれます。

その後、中琉球は海面変化などによる近隣の島間での分離・結合を繰り返し、現在の島の形になりました。その過程で、多くの生物は島々に閉じ込められ、何万年もの

長い年月をかけて島ごとに固有の種へと進化してきました。

奄美群島の島々はその成り立ちの違いから、動植物や景観の様子が大きく異なる2種類の島に分けられます。

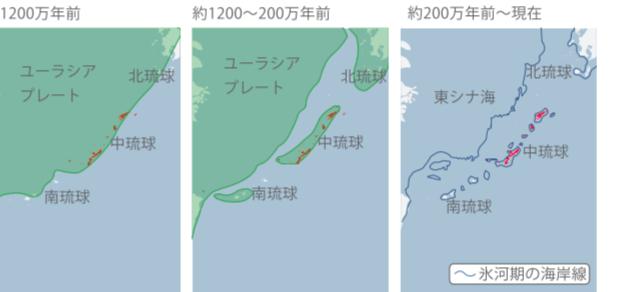
### | 山地のある高島（奄美大島、加計呂麻島、請島、与路島、徳之島）

新生代新第三紀より古い地層から構成され、山地が多く起伏が大きい。山地が海岸線まで迫り、周囲は切り立った崖をなして平地が少ない。

### | 低く平らな低島（喜界島、沖永良部島、与論島）

新生代第四紀に形成された琉球石灰岩からなり、山地が少なく低平な地形。段丘地形がよく発達しており、数段の段階状をした段丘を見る事ができる。

奄美群島は、年平均気温約21°C、年間降水量約2,800mmと温暖・湿潤な気候であることと、各島の成り立ちの違いから、熱帯照葉樹林、干潟、リアス海岸、サンゴ礁など多様な自然環境が存在しています。



奄美群島の人々は、琉球・薩摩の影響を受けながら、日々の暮らしの中で島唄、八月踊り、豊年祭など独自の伝統文化・芸能や信仰、自然観などを生み出してきました。そのため、伝統芸能にも南方系と北方系の歌・演目が入り交じったものが見られるなど、琉球文化や大和文化などが溶け合った文化が形成されています。集落を中心として前面の海と背後の山をひとつの生活空間とした奄美地域のかつての生活は、海や山に神の存在を認め、自然と一体となったものでした。古道やサンゴ石垣などのかつての生業の痕跡は、自然との関わりを示す文化的景観として今まで伝えられています。



## 連絡先一覧



## 動植物

山地は、亜熱帯照葉樹林に覆われて、温帯と熱帯の両方の樹種が生育しているのが特徴的です。スダジイ、アマミアラカシ、オキナワウラジロガシなど、常緑のブナ科植物が優占しています。

植物では、南方系と北方系の種が混在して豊富な植物相を有しており、奄美群島を分布の北限とする種が約120種あるなど、多くの南方系の種の分布北限となっていること、ウケユリ、トクノシマエビネ、アマミセイシカなどの固有種が多いことが特徴です。

動物では、アマミノクロウサギ、アマミトゲネズミ、トクノシマトゲネズミ、オオトラツグミ、オビトカゲモドキ、リュウキュウアユ、オオシマケマイマイなどの固有種・固有亜種をはじめ、多様な動物相を有し、奄美大島

や徳之島ではハブを食物連鎖の頂点とした独特の生態系が形成されています。群島の海岸域には、ウミガメの産卵地が存在しているほか、アジサシ類、アナドリ類の海鳥の集団繁殖地がみられるなど、広範に移動する動物たちの重要な中継地・繁殖地ともなっています。海域では、サンゴ礁が発達し、造礁サンゴの種数は約220種にのぼり、魚類、貝類、甲殻類など多様な生物の生息場所となっています。まとまった規模と一定の生物多様性を有するサンゴ礁として世界的にみても北限に位置しています。



## — ハングース防除 —

1979年にハブ対策のため奄美大島に持ち込まれたマンガースは、アマミノクロウサギやアマミイシカワガエルなど多くの希少な動物をはじめとする在来種を捕食し、生態系のバランスを大きく崩しました。2000年に本格的なマンガース防除に着手し、2005年からは「奄美マンガースバスター」を結成して、計画的な防除を進めています。現在は、様々な在来種の生息状況が回復しつつあり、最終的には奄美大島からのマンガースの完全排除を目指しています。

## — 少野生生物の保護増殖 —

アマミノクロウサギ、アマミヤマシギ、オオトラツグミの3種について、保護増殖事業計画に基づき生息状況の調査等を行っています。各種調査・研究、パトロール、普及啓発などに取り組むことで、これらの種を取り巻く環境を注意深く見守っています。



## 国立公園の利用上のマナー

多くの方に楽しく利用していただくために、  
国立公園内では自然を大切にすることを心がけ、  
次のことを守ってください。

- ゴミを捨てないでください
- 花や植物を探らないでください
- 野生動物に餌を与えないでください
- 昆虫や動物を獲らないでください
- 歩行中禁煙、タバコのポイ捨て厳禁
- 雨天時・土砂崩れに注意
- 島の生き物にやさしい運転をしましょう
- 外来生物を持ち込まないようにしましょう
- ハブなどの危険生物に注意
- 高波・波浪・潮流・強風に注意。(潮位の変化にも注意)
- フィンやマリンブーツで生きているサンゴを傷つけないようにしましょう
- 動物の写真を撮るときは必要以上に近づかないように、希少種はみだりに位置情報などを公開しないようにしましょう
- 5~8月はウミガメの産卵に配慮しましょう。観察するときは、赤いライトを持って静かにしましょう。

奄美群島国立公園サイト  
<https://www.env.go.jp/park/amami/index.html>

傷ついたり死んでいるアマミノクロウサギなどを見ついたら、下記連絡先までお電話下さい。  
ケガであれば助かる可能性が高まります。  
傷病鳥獣や事故の情報は今後の事故防止対策に役立つことがあります。

奄美大島：環境省奄美群島国立公園管理事務所  
TEL | 0997-55-8620

徳之島：環境省徳之島管轄官事務所  
TEL | 0997-85-2919



発行者：環境省  
発行年：2020年

\* 見どころ案内マップは、指定区域の概要を示すために作成したものであり、誤差があることを考慮した上でご利用ください。

